ヒマラヤ国際映画祭WEST JAPAN 2009

報告書

NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン / シネマ・アザディ

2009年８月

目 次

はじめに… p.3

映画祭の開催概要… p.4

体制及び活動の概要… p.5

動員結果＆会場アンケートから… p.6

メディア報道… p.7

はじめに

「ヒマラヤ国際映画祭WEST JAPAN 2009」は、京都及び神戸の３会場において延べ19日間、53回の上映で2100人を動員した（チベット写真展など関連イベントを含めると2750人）。来場者とのコミュニケーションやアンケート結果からは、多くの来場者がこの映画祭を高く評価していることがわかり、WEST JAPAN 2009は、評価と動員の両面で概ね成功を収めたと評価できる。

期間中の主要なイベントはいずれも何らかの成果を得るに至った。

オープニング･パーティでは、映画関係者、大学関係者、著名人など多方面の人材との交流が生まれた。宮原巍氏の講演（「ネパールに描く夢ー宮原巍４０年の挑戦」）にはヒマラヤ関係者を含む多くの方々が来場し耳を傾けた。『チベット難民』の田中邦彦監督のトークは熱心な観客たちと充実したQ&Aが行われた。「ヒマラヤへの祈り」と題した神戸のミニコンサートは、狭い会場ながら、関係者も含めると70人もの観客で埋まり、古典楽器の荘厳な調べに大きな拍手が沸き起こった。

映画祭を成功に導いた要因は、上映作品の水準の高さ、そして、この映画祭の創設者であるオランダ人のグレン・ミトレイシング氏及び監督達の協力にあることは言うまでもない。加えて、製作者たちと交渉し、これら作品を日本に持ち込み、字幕をつけた田中邦彦代表兼総合プロデューサーの貢献度が大きい。

我々は、「ヒマラヤ国際映画祭」が他の国内映画祭と比較しても素晴らしい個性を持ち、価値が高いイベントであることを自負しており、今後も継続した開催を目指していく。

ヒマラヤ国際映画祭WESTJAPAN2009 運営事務局

1．映画祭の開催概要

（1）概要

- 開催時期：2009年4月25日～5月8日
- 会場：　ウィングス京都イベントホール　(4月25＆26日)
  京都みなみ会館　(4月28日～5月8日)
  神戸映画資料館　(5月2～6日)
- 主催：NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン、シネマ・アザディ
- 後援：ヒマラヤ・アーカイブ・ネーデルランド、ネパール大使館、
  日本ネパール協会、京都新聞、神戸新聞、エフエム京都
- 特別協賛：ヒマラヤ観光開発株式会社
- 公式サイト：http://himalaya2009.jakou.com/

（2）プログラム構成

- メインプログラム：映画上映 16プログラム（30作品）
- オープニングイベント：「ようこそヒマラヤへ！」（4月25-26日）
  - オープニング・セレモニー（音楽によるヒマラヤへの祈り）
  - トークイベント：「ネパールに生きた40年　宮原巍（たかし）の挑戦」（ヒマラヤ観光開発株式会社代表取締役）
  - トークイベント：『チベット難民』の田中邦彦監督　ヒマラヤを語る
  - オープニング・パーティ
- 写真展「ルンタにのせて」（ウィングス京都と神戸映画資料館で開催）
- チベット、ネパール、インド、ブータンのグッズ、書籍の販売（各会場）
- KOBE交流パーティ＆ミニコンサート（5月4日）
  ＊サランギとタブラ（インドの古典楽器）、バンスリ（ネパールの竹笛）によるコンサート。オリジナル曲も披露。

（3）料金設定とチケットの種類

＊入場料

	前売	当日
1プログラム（基本2作品）	1,000円	1,300円

(他割引などあり)

２．体制及び活動の概要

■ 体制

（１）事務局

〒615-8232 京都市西京区御陵南荒木町2-50

電話 075-382-2331　windchime@m9.dion.ne.jp

（２）主催、後援、協力、協賛、スタッフ

＜主催＞　NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン(HAJ)、シネマ・アザディ

＜後援＞　ネパール大使館、日本ネパール文化協会、京都新聞社、神戸新聞社、
エフエム京都

＜協力＞　ヒマラヤ・アーカイブ・ネーデルランド、アールシーエス、神戸映画資料館、
京都みなみ会館、プラネット上映室、チベットサポートグループKIKU大阪、
他多団体・個人（順不同）

＜特別協賛＞　ヒマラヤ観光開発株式会社

＜協賛＞　有限会社ROXY（BAR Del se）、株式会社モンベル、インド料理ゴータマ

＜正式スタッフ＞

田中邦彦（HAJ代表、総合プロデューサー）

鴇明浩（WEST JAPAN２００９プロデューサー兼事務局長、シネマ･アザディ代表）

小野嶋智雄（HAJ）／西川敦子（マスコミ渉外・総合司会）

田上笑（ポスターデザイン、ビジュアルデザイン全般、広報物・ＷＥＢデザイン）

鴇実佐子、吉村卓也、Mako、ゆうき、ぱぴ、脇文香、小林綾子、小野嶋幸雄、
河野俊文

＜コンサート･スタッフ＞

池田摩耶（コンサート企画･サランギ演奏）

ダニエル・ナタリニ（コンサート演出･作曲、ビデオ制作・タブラ他演奏）

ラム・ラトナ・マハラジャン（バンスリ演奏）

＜トークイベントゲスト＞

宮原巍／田中邦彦

■ 関連活動

（１）オープニング・セレモニー

オープニング・セレモニーは、ヒマラヤとシバ神をイメージした映像およびオリジナル音楽をバックにサランギなどを生演奏（本映画祭のための書き下ろしの曲）するコンサート形式とし、11分の演奏終了後に、アナウンスと田中代表のあいさつを行った。

（２）オープニング・パーティ

初めての催しを関西で行うにあたり、各方面に印象付けること、来場者とスタッフとの交流を目的に行った。映画祭にちなんだオリジナルカクテル3種も制作し、会場、料理などの面で好印象を持ってもらったと感じる。一般参加者は約50人で、総勢約60人であった。

（３）神戸ミニコンサート＆パーティ

動員、内容ともに大成功であった。コンサートは来場者を魅了した。サランギ、タブラ、バンスリの生の音色は素晴らしい。演奏者のダニエル氏が、オリジナル映像を制作するなど積極的に関わってくれたことも嬉しい限りであった。今後とも映画祭附帯のイベントして積極的に検討していく。パーティも楽しいものであった。

３．動員結果

- ウィングス京都　317名
- 京都みなみ会館　1,251名
- 神戸映画資料館　537名
- オープニング・パーティ　51名（スタッフ除く）
- ミニコンサート　50名
- ウィングス写真展（推計）222名
- 神戸写真展（推計）322名

計2,750

４．会場アンケートから

* この映画祭へのメッセージ抜粋

◇今回関西でこのような興味深い映画祭を観られてとてもうれしい。すばらしかった。

◇これからもぜひ継続してほしい。応援しています。

◇もっともっと多くの作品を上映して、世界中で開催されるように頑張ってください。

◇知らない世界、弾圧されている本当の声、本当の事を伝えてください。

◇美しい映像、考えさせられる数々の作品、どれもすばらしかった、考えさせられた。意義ある活動だと思う。どうかこれからもがんばってください。

◇メジャーでない映画をこうして我々にも見せていただけることは大変うれしい。人の入りがよくなくてもがんばってください。

◇世界各地の人間の生き方を、映画の持つ力で世界の多くの人に発信されたい。

◇世界の人たちにヒマラヤ地方を紹介するのはとても良いし、大切なことだと思う。事実をそのままお伝えください。

◇素晴らしい映画祭だったと思います。皆様がんばってください。

5. メディア報道

◇報道一覧

〈雑誌〉

Meets Regional　　５月号
SAVVY　　５月号
関西ウォーカー　　４月14日号と４月２４日号
ぴあ　　５月７日号

〈雑誌　webバージョン〉

Meets Regional
SAVVY
LEAF
関西ウォーカー

〈新聞〉

サンケイリビング京都　　４月10日
朝日新聞折り込み、あいあいAI　４月１５日
日刊スポーツ折り込み情報紙　　４月２２日
ヘラルドトリビューン　　４月24日
神戸新聞　　４月17日夕刊、５月2日朝刊
京都新聞　　４月20日朝刊　コラム「メディア」
読売新聞　　４月21日　朝刊京都版
読売新聞　　４月２２日　夕刊
朝日新聞　　４月23日　夕刊
朝日新聞　　４月25日　朝刊京都面
産經新聞　　４月24日　朝刊
毎日新聞　　４月26日朝刊大阪地域版
毎日新聞　　５月1日朝刊京都地域版
毎日新聞　　５月1日朝刊　　神戸地域版
日本経済新聞　　４月23日夕刊

〈web新聞〉

烏丸経済新聞

〈ラジオ〉（スタッフ出演）

MBS　am１１７９「ありがとう浜村淳です。」　４月1日
ラジオ関西　am５５８「神戸キネマナイト」　４月21日
京都三条ラジオカフェ「日曜午後の遊び時間」　４月5日
FM COCOLO「ON THE MOVE」４月19日（にちよう）
京都リビングエフエム「ワカバン！」　４月17日
fmわいわい　「神戸長田スクランブル」　４月11日
FM COCOLO「映画とインド人」　４月24日

〈ラジオ〉（紹介）

KBS　「週間シネマMAX」　4月24日
ラジオ関西　「谷五郎の心にきくラジオ」
ラジオ大阪　「乾龍介の幸せラジオ」

〈テレビ〉（スタッフ出演）

KBSテレビ　「ぽじポジたまご」　４月8日＆同日再放送
NHKテレビ　「ぐるっと関西おひるまえ」　４月24日

〈テレビ〉（紹介）

NHK京都制作　ニュース610京いちにち　週末情報
NHK神戸制作　ニュースKOBE発　お知らせコーナー